

運動会大成功 本気を出し チームを信じて 全員がんばりました

5月27日(土)に運動会を実施しました。前日からの雨が朝方まで続いていましたが、開会式の頃には雨もやみ、予定どおり運動会を行いました。例年ですと、熱中症を心配しながらの運動会ですが、ちょうど良い気温で、1日過ごすことができ、コンディションとしては、最高の舞台でした。子ども達は、吹き抜ける風のように、爽やかな活躍を見せてくれました。

高学年の5、6年生は、演技はもとより、応援、係、そして前日までの準備や練習でも、下級生の範となり、運動会を盛り上げてくれました。他の学年の子ども達も、立派でした。スローガンどおり、本気を出し、チームを信じて全員がんばりました。

保護者の皆様、ご来賓の方々、地域の方々にもたくさんご参観いただきました。ご多用の中、応援本当にありがとうございました。



5月後半の学校生活から



茶道クラブ



囲碁・将棋クラブ

クラブ活動が始まりました。

5月18日(木)、今年度のクラブ活動(4年生以上)が始まりました。今年度は、茶道、囲碁・将棋、科学・工作、パソコン、家庭の5つのクラブが開催予定です。今年度も、地域の指導者として、茶道クラブは佐藤朝子様、星井トミ子様、囲碁・将棋クラブは佐藤定男様、土屋昌治様にご指導をお願いしています。1年間、どうぞよろしくお願いいたします。



科学クラブ



パソコンクラブ



5年生が田植えを行いました。

5月19日(金)に、5年生が、農業科支援員 山富士雄さんの指導の下、田植えを行いました。青空の下、秋の収穫を願いながら、5年生15名が丁寧に田植えを実施できたようです。社会科でも農業の米作を学習する5年生です。実際に田んぼでの稲の

生長を観察しながら、米作りの大切さ、難しさを体験を通して学んでいってほしいと思います。



奉仕作業・防犯看板設置が行われました。

5月21日(日)に、保護者の皆様、子どもたちも参加した第1回奉仕作業が行われました。早朝からたくさんおいでいただき、校舎内のガラス磨き、校庭の草刈り、草の袋詰め等の作業が行われ、見違えるように学校がきれいになりました。翌週(27日)の運動会は奉仕作業のおかげで綺麗な学校で行う事ができたのです。保護者の皆様、本当にありがとうございました。また、同日に、生活指導委員会による学区内防犯看板の設置も行われました。役員の皆様、誠にありがとうございました。

見

お米を育て 私を育む

いま No.1273
子どもたちは
田んぼに学ぶ ①

肌寒さが残る4月17日朝、福島県の喜多方市立第三小学校の校庭に、青いシャワーシート姿の5年生15人が集まった。第三小の今年の「農業科」の始まりだ。

「先生」は近くで農業を営む山草士達さん(元)。茶色の種もみ(コメの種)を手で「何ていう種類だか、分かる人?」これがねもちっていうおもしろいもち米です。きょうはこの種をまく作業をします」と語りかけた。

「はい」。まっすぐに手をあげた子どもたちが、3グループに分かれて作業を始めた。

横並び、横並び、深さ3センチの苗箱に、両手ですくった土を入られる。物差しで土を平らにならした後、水につけておいた1つ5Aほどの種もみをまいた。

「バラバラバラ、バラバラバラ」と「まじい糞だな」あ、15粒落ちたぞ。はしゃいで種もみをまく子どもたち。山草さんが「ドサッてまいたらだめだぞ、こぼさないように」と声をかけた。

種もみをまいた後、もう一度、薄く土をかける。温度が上がりすぎないように黒い布で苗箱を覆い、作業は終わった。2週間ほどで芽が出て、葉の数が「3枚半」、長さ約20センチになったころが田植えだ。

第三小の田んぼは山草さんから借りている。子どもたちは5月20日ごろ、育った苗を自ら運び、手作業で田植えをする。9月に予定する収穫も、鎌で刈り取る手作業だ。そして、11月には「収穫祭」。餅つきをして、あんこや納豆をつけたお餅を全校児童で味わう。

五十嵐聖さん(10)は祖父が農家だ。でも、種もみにさわったのは初めて。「あれがお稲になるなんて思えない。すっごく硬くて、楽しかった」と話した。佐藤未来さん(10)は「農業

は好きでも嫌いでもないけど、最後に食べられるのが楽しみ」とほかにかんだ。

喜多方市の「農業科」は2007年4月、全国初の試みとして三つの小学校で始まった。09年から「総合的な学習の時間」の一部を使うようになり、11年には全17市立小に広まった。

なぜ、農業なのか。人口約5万人の喜多方市がある会津地方は、福島県を代表する米どころ。ただ、農業従事者の高齢化や担い手不足に悩まされ、若者の流出も進む。そこで、市教育委員会が目をつけたのが「農業の教育的効果」だった。

農業科の特徴は、児童が1年をかけて作物を育てること。コメの場合、春の種もみまきから田植え、雑草取りを経て、収穫して食べることで経験する。手作業にこだわりの、時間をかけることで、我慢強さや主体性、地域への思いを育むという。

ただ、農業に詳しくない教員も多い。このため、「先生」に

なるのは近くの農家ら。ボランティアの「農業科支援員」として100人以上が市教委から委嘱されている。農業を体験できる小学校は全国に広がっているが、

「全市立小で実施し、これだけ地域に支えられているのはほとんどない」(市教委)という。山草さんは、第三小に8人いる支援員のうちの1人。昔母はコメと繁殖牛を育てている。子どもと向き合うとき、山草さんは「言葉でしゃべってやらせて、できるだけ手は出さない」と自分に課している。「水やりが十分でなく、苗が青ちにくかった年もある。でも、失敗すること子どもは大きくなるんですよ」と話す。(十階聖平)

ラーメンと蔵で有名な福島県喜多方市。地域の人が支えられながら、「いのお」を育てる農業に取り組み子どもたちの姿を伝えます。



●もち米の種もみをまく子どもたち 4月、喜多方市立第三小学校

5/23 民友

伸びる松 子どももと重ね

伸びやかな声で校歌を斉唱する児童



わが校歌

- 一、大仏山に朝日さし
田付の水は清らかに
我らが集う学舎は
明るい希望に満ちている
- 二、変わらぬ松は堂々と
飯豊の山と並び立ち
理想は高くどこまでも
未来に向かって伸びてゆく
- 三、その名も高き第三小
響く歌声高らかに
心と体鍛えぬく
誇れる我ら共にあり

作詞 平田 幸一
作曲 佐藤 裕樹

喜多方三小 喜多方市

校舎を包み込むような柔らかなメロディー。2011（平成23）年度に岩月小、入田付小の統合によって誕生した喜多方三小では、児童が新たな校歌を歌い上げている。

同校によると、当時岩月小の教諭だった平田幸一さんの歌詞が公

募で採用され、作曲は当時喜多方三中に勤務していた音楽教諭の佐藤裕樹さんが担当した。武藤幸恵校長は「いかにも小学校の校歌というような口ずさみやすい曲。地域の人から愛されるように伝統を築いていきたい」と語る。

歌詞には大仏山、田付川、飯豊山など地域になじみ深い風景が描かれている。象徴的なのは2番の「変わらぬ松は堂々と」。同校の児童は「松の子」と呼ばれ、校庭に植えられた2本の松と日々成長する子どもの姿が重なり合う。

全校児童は96人。1、6年生の縦割り班「松の子ファミリー」の活動も盛んで、班単位での清掃や農業科の授業、運動会の対抗種目などを通して友情を深めている。

一方、統合による学区拡大で古里への愛着が希薄になることが懸念され、6年生は総合学習の一環として地域の歴史を学んでいる。武藤校長は「校歌にも郷土愛を高めていこうという願いが込められているのでは」と話している。

* 運動会当日、鉄棒付近に折りたたみイス（黒に赤いラインがはいったもの）の忘れ物がありました。お心当たりの方は、学校職員室へおいでください。

* 5月30日（火）、上岩崎地区で熊の目撃情報がありました。学校では、登下校時における送迎を保護者の方をお願いいたしました。地区の皆様も十分注意されますようお願いいたします。